

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22530225

研究課題名(和文)ロシア多国籍企業の組織・戦略に関する実証研究

研究課題名(英文)Empirical research on organization and strategies of Russian Multinationals

研究代表者

溝端 佐登史(Satoshi, Mizobata)

京都大学・経済研究所・教授

研究者番号：30239264

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：新興市場経済、移行経済はこれまで国内の資本不足から直接投資を受け入れる地域として分析されてきた。しかし、2000年代に入り新興市場の経済成長は、新興国発多国籍企業、新興国からの直接投資というまったく新しい現象をもたらしている。本研究はロシア多国籍企業の組織、戦略を実証的に明らかにすることで、ロシア企業が比較優位部門において海外進出していること、海外進出において経路依存性が観察されること、さらにオフショア圏への進出とCIS諸国間での国際金融の結びつきが生じていることを析出している。ロシアにおける経済制度が多国籍化の組織・戦略を規定しており、既存の多国籍企業理論に制度立脚型の動機を提示している。

研究成果の概要(英文)：New emerging and transition economies have been mostly analysed as countries-recipients of FDI in the economic literature. Economic growth of emerging economies in 2000s stipulated the emergence of new emerging multinational corporations (MNCs) and stimulated the outward FDI from these countries. The present study empirically investigates the organization and strategies of Russian MNCs and concludes that Russian companies expand their business abroad in the sectors where they have competitive advantage, and that there is a path-dependency trend in the foreign expansion. There are strong linkages with offshore regions as major destinations for Russian FDI and strong financial ties with CIS region. Russian economic system as a whole predefines the process of transnationalization of Russian companies and their foreign expansion strategies and, thus, we conclude that the Russian case presents institutionally-driven motivation for expansion that supplements existing theories on MNCs.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：多国籍企業 直接投資 オフショア 経済危機 国際金融 コーポレートガバナンス 経済政策 経済制度

1. 研究開始当初の背景

新興市場経済、市場移行経済研究では、経済制度、企業のコーポレートガバナンス研究に焦点をあてた研究が進められ、研究代表者の溝端も当該領域で企業の構造・行動を分析してきた。ことにロシア企業研究では、ゆがんだ市場経済・制度の影響を受けて先進諸国とは異なる企業行動が検出され、世界的にはロシア企業の行動・組織の独自性が議論の中心に位置した。

同時に、マクロ経済面からロシアを含む移行諸国への直接投資(多国籍企業進出)も研究され、当該経済はグローバル化の影響を受ける地域として位置づけられた。しかし、2000年代の経済成長は事情を大きく覆した。資本輸入国から資本輸出国への転換、移行諸国発多国籍企業という新しい現象が生じたが、この現象に対し、理論的にも実証的にも世界的に研究が遅れるという事情にあった。Liuhto K. ed. (2005) Expansion or Exodus が唯一の研究成果といっても過言ではない。

国際金融論の側面からも直接投資の流れが分析され、ロシアからの投資規模の増大が注目されたが、資本逃避と結びつけて議論されることはあっても多国籍企業の視点から本格的に研究されることはなかった。

一方の多国籍企業論では、多くは先進諸国企業のロシアへの進出が実証的に分析され、市場拡張戦略とロシア市場におけるスピルオーバー効果の検証が研究の中心に位置した。伝統的なプル・プッシュをベースにした多国籍企業の進出動機が研究に用いられた。

それゆえに、ロシア発多国籍企業の進出は、ロシア企業研究だけでなく、国際金融論、多国籍企業論においても十分に研究されることはなかった。ようやく、2000年代末以降、研究が本格化し始め、それは多国籍企業論において新しい研究対象を提示しただけではなく、新興市場の性格付け、国際的な資金循環、さらには世界経済危機の伝播というグローバルな経済問題とも密接に関係する研究課題となった。そのうえに、研究開始当初は研究課題の設定だけでなく、国際的な研究ネットワークの構築もまた研究上の重要な課題に含められていた。

2. 研究の目的

本研究は、市場移行国である新興市場として注目されるロシアにおける企業の多国籍化を企業統治と組織、経営戦略、M&A、グローバル化への対応から理論的・実証的に分析し、国際市場における同企業の行動様式を明らかにすることを目的としている。本研究によりロシア企業分析に新たな視座を付け加えるとともに、伝統的な多国籍企業論にも新興多国籍企業という新しい研究対象とその理論の枠組みを提示することにもなる。しかも、中国に代表的であるが、新興市場経済は同様の現象を引き起こしており、それゆえ本研究は新興市場経済論にも新しい視座を提

供しうる。

本研究により、ロシアの経済構造の変動もまた検証される。一般にロシア経済は資源依存型経済として分析されるが、多くの研究者が明らかにできなかった問題がある。それはオイル・ガスマネーがどのように国内・国際市場に流れているのかという国際金融論の側面からの分析であり、本研究によってその資金の流れの一端が解明可能となる。

さらに、本研究では市場の経済制度研究が不可欠であるために、制度の独自性もまた重要な研究対象となる。

以上のとおり、本研究は、ロシア多国籍企業の理論・実証研究を基盤にしながら、比較経済システム論、比較制度研究、さらに国際経済学、国際金融論にも貢献することを目的としている。

3. 研究の方法

ロシア多国籍企業の研究は、直接には、(1)ロシアの企業システム・コーポレートガバナンス研究、(2)国際経済学(多国籍企業論)の視点からの企業進出動機、経営戦略、取引様式、資源移転方法などを対象とした研究、(3)ロシアの研究者が伝統的に行ってきた経済社会学的な企業の実態調査の3つの接近方法に基づいて行う。そのための一次資料・二次資料を丹念に収集し、研究に活用する。また、多国籍化は資本輸出、直接投資を意味する以上、国際金融の視点からもまた分析される。丁寧な国際収支分析が不可欠である。なお、こうした実証研究は多国籍企業論、さらには国際経営論による企業の海外進出動機に関する理論研究を再考すると同時に、新興市場経済に共通する現象として比較多国籍企業論としても研究を進めることを可能にする。

そのうえで、本研究では次の方法にも依拠している。大企業・多国籍企業を軸にした企業と社会の相関を意味する企業社会の見方は比較経済学の新しい視座になるものであり、ロシア多国籍企業の国内に及ぼす影響を考察するうえで有効な方法になる。また、企業がグローバル市場に接近するなかで、市場の制度そのものが進化するとともに、それを促す経済政策(近代化政策)が講じられている。それゆえに、経済政策と市場制度の視点からの分析もまた考慮する必要がある。

研究成果の公表方法として、国際学会・国際コンファレンスを優先して報告するとともに、国際的な図書・雑誌での公表を目標とする。また、研究成果の公表にあたって、研究がなお始まったばかりであることを考慮して、国際的な共同研究体制の構築にも配慮する。

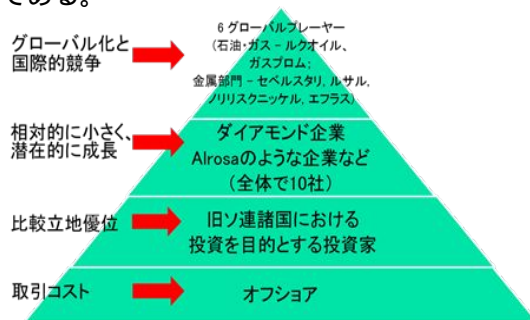
4. 研究成果

ロシア多国籍企業の理論・実証研究は、それに直接関わる研究成果とともに、企業社会、経済制度、新興市場および経済政策に関わる間接的な研究成果を含む。

(1)ロシア多国籍企業の理論・実証研究

本研究におけるもっとも中心的な研究成果は、ロシア多国籍企業の実証研究であり、それは次の仮説の検証を行い、結果を得た。(1)「直接投資は移行後の経済制度の非効率性に対する反応である」という仮説は否定され、取引コストを引き下げるための市場のプレーヤーの直接の戦略的行動の結果である。(2)「国家コントロールの欠如のため、ロシア資本は海外に流出する」という仮説も否定され、国有企業もまた積極的に多国籍化を進めており、国家コントロールが多国籍化の経営戦略に反映している。(3)「ロシア多国籍企業は市場の新しいプレーヤーである」という仮説は否定される。大部分の多国籍企業はソ連時代から経路依存的に子会社ネットワークを形成していることが実証された。(4)「ロシア新興多国籍企業の経営戦略は先進諸国の多国籍企業のそれに類似している」という仮説はプル・プッシュの動機に関しては共通しているが、ロシアでは制度上の動機が大きい点で両者は異なっている。このように、伝統的に主張される移行後のロシア市場の未成熟さから資本流出が生じ、多国籍化はその現象であるとする見解は誤りであり、企業・国家の自律的な意思決定が多国籍企業化に見出すことに成功した。また実証研究によって、ロシアの直接投資研究において統計データが再投資分を含めないために誤って理解されてきたことも明らかにした。

ロシア多国籍企業は、その規模、進出相手先、動機などで分類することが可能であり、世界的な大規模多国籍企業としてグローバル市場に進出する層、相対的に小さいが特定さの産業部門で成長が見込まれる層、比較立地優位に沿って旧ソ連圏で事業を展開する層、さらにオフショア圏に進出する層に分けられる。この分類は溝端が独自に行ったものである。



多国籍企業には次の特徴を検出することができた。大部分の多国籍企業は所有優位論に即して進出しており、それは民営化政策の延長線上に位置づけることができる。多国籍化はロシア産業の比較優位を反映して、資源・エネルギー、金属を指向しており、垂直統合型企業が典型的な事例となる。多国籍化は景気変動に関わりなく生じているが、産業ごとにそのプロセスは異なる。国家参加度はきわめて強く、ガスプロム、対外経済銀行が

その典型事例となる。多国籍化に際し M&A が用いられる。とくに、旧ソ連市場への進出は経路依存的な動機・組織・行動の結果を指しているが、旧ソ連圏からロシアへあるいは相互の多国籍企業の進出が観察されることは我が国ではまったく研究されてこなかった事象ということができよう。こうした経路依存性は、重力モデル、取引コスト、企業内世界分業といったこれまでの多国籍化の理論が利用可能であることを示唆しているが、本研究では、その分析視角だけでは不十分であり、政府間協定など国家の戦略がそのまま多国籍化を導く。

多国籍化の結果、国内の資金循環は企業内の金融循環として、国際金融と結びついており、本研究は「パラレル経済」と呼ばれる二重経済構造が形成されていることを導き出した。この分析結果はロシアの B. ハイフェツ教授の研究成果に依拠し、かれとの共同研究を進展させている。二重経済構造はリスク・コストを減ずるだけでなく、企業パフォーマンスにとりシナジー効果もある。

ロシア多国籍企業を特徴づけ、先進諸国のそれと区別する現象はオフショア企業の存在であり、直接投資の 80% ほどを占めている。この規模は中国と場合と共通しており、新興市場に特徴的とも言える。オフショアそのものは逃税手段として説明されやすいが、実際には複雑な所有構造の形成、有効な情報交換の欠如などを意味し、さらにロシアのケースはソ連時代の遺産を反映しており、こうした研究成果は新しい研究成果ということができる。世界経済危機の中で、世界的にオフショア規制が強まり、ロシア政府も規制を強化する施策を講じているが、政府系企業そのものが深くかつ複雑にオフショア子会社を編成しているために、改革はほとんど前進せず、このことが制度の腐食を引き起こしている。

本研究が多国籍企業理論(所有優位、内部化、立地優位)に対し、制度規定的な多国籍化を導出している。制度はこれまでの国際経済学では説明要因としては軽視されてきたが、新興国多国籍企業は制度と緊密に関連しており、それゆえに経路依存性が強い。なお、本研究は主に国際学会で公表している。(論文、図書、学会発表、、、、、、、21)なお、本研究は IFSAM 世界大会(2014年9月)でセッション設計に貢献するとともに、イギリス、ロシア、中国における国際共同研究に広がっている。

(2)企業社会分析

企業の変化は企業と社会の相関に重大な変化をもたらす。本研究では、多国籍化が企業社会に及ぼす影響を考察し、企業の社会的機能・責任が独自に編成されることを導き出している。本研究では、多国籍企業化がガバナンスの正常化とともに、ロシアの制度上の独自性を有することを明らかにしている。本研究もまた国際学会で公表するとともに、日

本との比較研究を進めることで、比較企業社会論という新しい視座を提示している。(論文、 、 、 図書、 、 学会発表、 、 、 24、25)

(3)市場・制度分析

本課題に関連して、研究期間中の最大の成果はS. I. Cohen教授を日本に招き国際コンファレンスを開催するとともに、比較経済学の教科書として今日定着している書物の刊行を行った点である。(図書)

多国籍企業化は市場の経済制度がリベラル化したことを意味しているわけではない。移行後四半世紀を経て、経路依存性論がどのように変化しているのかを体系的レビューにより実証分析し、南東欧およびロシア・旧ソ連圏で相対的に強く影響していることを明らかにした。この様な制度変化はとくに労働面で色濃く残っており、そのことがロシア企業における動機形成に強く作用している。本研究は比較制度分析の国際共同研究として実施した。

さらに、制度経済学の専門家と共同研究を行い、市場移行諸国の経済制度は相互補完性を作り出すことができず、制度の腐食を引き起こすという研究にも着手することができた。(論文、 、 、 図書、 、 学会発表、 、 、 23)

(4)新興市場・経済危機分析

新興市場経済に関する研究は必ずしも国際経済学において精緻に定義されているわけではなく、また理論・実証的に十分に研究されているわけではないが、本研究により多国籍企業化およびオフショアを利用した国際的な資金循環の拡大により、新興国発の危機伝播のリスクが大きくなっていることを明らかにしている。とくに、ロシアは資源依存の大きさから世界経済危機を国内にも国外にも増幅させて伝播するリスクが大きい。(論文、 、 、 図書、 、 、 学会発表、 、 、 22)

(5)近代化・経済政策分析

多国籍企業化はロシアにおいて大企業の形成とそれを基盤にした成長政策の実施を意味し、ロシアでは近代化政策が2007年以降に重視されている。言い換えれば、多国籍化はロシア経済の近代化のためのひとつの副産物であった。本研究では、ロシア近代化の政策、制約要因とともに、その結果を実証的に明らかにし、近代化の制約要因、とりわけ経済制度上の制約要因が大きいことを導き出している。本研究は日本国際問題研究所およびロシアNIS研究所からの委託共同研究の色彩も帯びている。(論文、 図書、 、 学会発表)

(6)国際共同研究体制の整備

本研究は国際経済学においてまったく新

しい領域であり、同時に新興市場、移行経済研究にとっても企業のガバナンス・行動、経済制度と国際金融を結びつける画期的な接近ともなっている。そのために、国際的な共同研究体制の構築もまた本研究の直接の研究成果といえることができる。ロシアの専門家として、B.Kheyfets および A.Kuznetsov とは招へい・訪問を通して共同研究体制と信頼関係を築き、共同研究を推進させており、イギリスの専門家 J.Wood、P.Hanson とは本研究を手がかりに経済制度と移行経済に関する共同研究体制を発展させている。

5. 主な発表論文等

(雑誌論文)(計13件)

溝端佐登史、「ロシアの近代化とイノベーション政策 - 変遷と課題 - 」、『ロシアNIS調査月報』、査読無、Vol.59、No.4、2014、1-17

Satoshi Mizobata, Olga Bobrova, Kyoko Fukukawa, CSR development and local community in Japan, Kyoko Fukukawa ed., Corporate Social Responsibility and Local Community in Asia, Routledge (図書所収論文)、査読無、2014、86-97
Satoshi Mizobata, Business ethics and corporate system in Japan, Shibani Khan and Wolfgang Aman eds., World Humanism: Cross-Cultural Perspectives on Ethical Practices in Organizations, Palgrave-macmillan (図書所収論文)、査読無、2013、208-226

溝端佐登史・堀江典生、「市場経済移行と経路依存性 - 体系的レビュー - 」、『経済研究』(一橋大学経済研究所)、査読有、Vol.64、No.4、2013、338-352
Satoshi Mizobata, Change of Japanese economy and the direction of dealing with crisis, Vietnam Academy of Social Sciences, Institute for Northeast Asian Studies, Vietnam Review of Northeast Asian Studies、査読有、No.9 (151)、2013、17-24

溝端佐登史、「グローバル金融危機の現段階 - 世界経済の新たなビジョンは可能か - 」、『立教経済学研究』、査読無、66、2013、187-216

Satoshi Mizobata, Twenty Years of Comparative Economics in Japan: From Economic System to Institutions and Beyond, The Comparative Economic Review, The Korea Association for Comparative Economics、査読有、19、2012、221-250
溝端佐登史、「ロシア経済危機再考」、『北東アジア研究』(島根県立大学北東アジア研究センタ) 査読有、第23号、2012、81-117

溝端佐登史、「ロシアにおける多国籍企業と経営戦略」、『総合政策論叢』(中京大学

総合政策学部)、査読無、第3巻、2012、131-156
Satoshi Mizobata, Seeking the New Paradigm of Comparative Economics: Beyond Economics of Transition, Journal of Comparative Economic Studies、査読有、Vol.9、2012、5-9
Satoshi Mizobata, The Japanese Economic System under the Global Crisis: Change and Continuity, Journal of the Corvinus University of Budapest, Society and Economy、査読有、33、2011、271-294
DOI: 10.1556/SocEc.33.2011.2.3
Satoshi Mizobata, Business Society and Corporate Social Responsibility: Comparative Analysis in Russia and Japan, Discussion paper, KIER Kyoto University、査読無、No. 774、2011、1-30
溝端佐登史、「成長と危機のなかのロシア企業社会 新興市場と比較企業研究」、『比較経営研究 - グローバリゼーションとBRICs』、査読有、第34号、2010、20-41

[学会発表](計61件)

Satoshi Mizobata, Corporate Social Responsibility in Russia and Comparative Analysis Perspective: For Ethics and Fairness in Markets, Foundation Singer-Polignac, Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), Ethics & Religions for a Fair Economy, 2014年1月24日、Foudation Singer-Polignac, Paris, France
Satoshi Mizobata, Corporate Social Responsibility in Russia and Comparative Analysis Perspective, JFBS International Conference, 2013年9月19日、早稲田大学(東京)
溝端佐登史、堀江典生、市場経済移行における経路依存性、比較経済体制学会第53回全国大会、共通論題「メタ分析的接近」、2013年5月31日、新潟大学(新潟)
Satoshi Mizobata, Victor Gorschkov, Emerging Multinationals in Russia: Motivation of Inward Outward Expansion, 日本比較経営学会第38回全国大会、2013年5月11日、鹿児島国際大学(鹿児島)
Satoshi Mizobata, Emerging Multinationals in Russia: Motivation of Inward Entry and Outward Expansion Cases, EACES Asian Workshop, The Pacific Rim Economies: Institutions, Transition and Development、2013年4月26日、Seoul National University, Seoul, S. Korea
Satoshi Mizobata, Reconsidering Russian Economic Crisis, The 5th Asia Joint Workshop in Economics (International Conference of Economic

Research Institutes in East Asia) organized by Seoul National University and National Research Foundation of Korea, 2013年3月29日、Ocean Suites Jeju Hotel, Korea
Satoshi Mizobata, Globalization and Emerging Transnational Corporations: The Russian Experience, 10th Biennial Pacific Rim Conference, Western Economic Association International, 2013年3月15日、慶應義塾大学(東京)
Satoshi Mizobata, Transnational Corporations and Market Transition in Russia, The 1st Bristol-Kyoto Symposium, 2013年1月10日、University of Bristol, UK
Satoshi Mizobata, Transnational Corporations and Market Transition in Russia, Asia Economic Community Forum 2012(招待講演)、2012年11月7日、Hyatt Regency Incheon, Korea
Satoshi Mizobata, Global Convergence of Russian Emerging Multinational Corporations, Conference on Market Quality, in the 50th Anniversary of KIER, 2012年11月2日、The Westin Miyako(京都)
溝端佐登史、新興国依存の世界経済は可能か - 市場移行経済ロシアを例に、立教大学経済研究所・経済学部主催公開シンポジウム「グローバル金融危機の現段階 - 世界経済の新たなビジョンは可能か」(招待講演)、2012年10月20日、立教大学(東京)
Satoshi Mizobata, Russian Transnational Corporations and their Management Strategies, 12th EACES (European Association for Comparative Economic Studies) Bi-annual conference, 2012年9月7日、University of the West Scotland, Paisley, UK
溝端佐登史、世界の成長の極、新興市場経済の行方、京都大学「東京で学ぶ京大の知」シリーズ7「新しい社会、そのための経済政策」、2012年5月16日、京都大学東京オフィス(東京)
Satoshi Mizobata, Russian Transnational Corporations and their management Strategies, AEI-Four Joint Workshop on Current Issues in Economic Theory, 2012年3月30日、National University of Singapore(シンガポール)
溝端佐登史、ロシア市場経済化概観 - 近代化の背景を考える、「ロシア市場経済化概観 - 近代化の背景を考える」日本国際問題研究所・ロシア研究会「ロシアにおけるエネルギー・環境・近代化」、2012年1月20日、日本国際問題研究所(東京)
溝端佐登史、市場経済化の軌跡 - ロシアの市場と経済社会、上智大学シンポジウ

- ム「ソ連の崩壊と中東の激動」(招待講演) 2012年1月14日、上智大学(東京)
- 溝端佐登史、ロシア企業の多国籍化と経営戦略、京都大学経済研究所共同利用・共同研究拠点プロジェクト「会社法定機関と人事労務管理制度の経済分析：ロシア株式会社の実証研究」国際コンファレンス、2011年12月10日、京都大学経済研究所(京都)
- 溝端佐登史、危機と成長におけるロシア多国籍企業、比較経済体制学会第10会期秋期大会(The 10th JACES Autumn Conference)、2011年10月8日、一橋大学(国立)
- Satoshi Mizobata, Russian Business Society and Corporate Social Responsibility: For Contribution to Comparative Economics, Young Researcher's Workshop on Economic Transition and Development World Class University Team (招待講演), 2011年5月20日, Department of Economics, Seoul National University ソウル(韓国)
- Satoshi Mizobata, Russian Business Society and Corporate Social Responsibility: Comparative analysis in Russia and Japan, Third Asia Joint Workshop in Economics, 2011年3月24日, Academia Sinica 台北(台湾)
- 21 溝端佐登史、ロシア多国籍企業の経営戦略に関する実証研究、北海道大学スラブ研究センター共同利用・共同研究拠点プロジェクト研究会・京都大学経済研究所マクロ経済学・経済システム研究会、2011年3月10日、京都大学経済研究所(京都)
- 22 Satoshi Mizobata, The economic crisis in Russia reconsidered, 海洋大学(ロシア)との特定研究：日ロワークショップ(招待講演)、2011年2月4日、島根県立大学(島根)
- 23 Satoshi Mizobata, Market economy and civil society in the present Russia, The 4th JIIA-KAS Seminar (招待講演)、2010年12月2日、日本国際問題研究所(東京)
- 24 Satoshi Mizobata, Russian Business Society and Corporate Social Responsibility: from the comparative CSR analysis in Russia and Japan, Joint Workshop on "Varieties of Capitalism in Russia and East European Countries: A Comparison with Developed Country", 2010年9月22日, University of Birmingham, UK
- 25 Satoshi Mizobata, Divergent path of Corporate Social Responsibility: Russian case and comparative perspective, EACES(European Association for Comparative Economic Studies) 2010, 2010年8月27日,

University of Tartu, Estonia

26 Satoshi Mizobata, FDI and the Russian Market for East and West, 第8回世界スラブ学会(ICCEES), 2010年7月28日, Stockholm City Conference Centre, Sweden

〔図書〕(計17件)

- Kyoko Fukukawa ed., Corporate Social Responsibility and Local Community in Asia, Routledge, 2014, 183(英語)
- Shiban Khan, Wolfgang Amann eds., World Humanism: Cross-Cultural Perspectives on Ethical Practices in Organizations, Palgrave-macmillan, 2013, 233(英語)
- 溝端佐登史、『ロシア近代化の政治経済学』、文理閣、2013、294
- Steven Rosefielde, Masaaki Kuboniwa, Satoshi Mizobata eds., Prevention and Crisis Management, World Scientific, 2013, 280(英語)
- 溝端佐登史、『EU統合の進化とユーロ危機・拡大』、勁草書房、2013、212
- 溝端佐登史、『エストニアを知るための59章』、明石書店、2012、367
- Steven Rosefielde, Masaaki Kuboniwa, Satoshi Mizobata eds., Two Asias: The Emerging Postcrisis Divide, World Scientific, 2012, 444(英語)
- スレイマン・コーヘン(溝端佐登史、岩崎一郎、雲和広、徳永昌弘監訳)、『国際比較の経済学』、NTT出版、2012、449
- 溝端佐登史、『新経済環境下のロシア市場』、ロシアNIS貿易会・ロシアNIS経済研究所、2011、94
- 溝端佐登史・吉井昌彦、『現代ロシア経済論』、ミネルヴァ書房、2011、286
- 溝端佐登史・羽場久美子、『ロシア・拡大EU』、ミネルヴァ書房、2011、354
- 溝端佐登史・小西豊・出見世信之編、『市場経済の多様化と経営学-変わりゆく企業社会の行方』、ミネルヴァ書房、2010、267

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.mizobata.kier.kyoto-u.ac.jp/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

溝端 佐登史(MIZOBATA, Satoshi)

京都大学・経済研究所・教授

研究者番号：30239264